資 料 3－3

令和２年第２回「いわて復興ウォッチャー調査」結果について

【要旨】
復興推進プランの進行管理の一環として実施する「いわて復興ウォッチャー調査」（令和２年第２回）の結果を取りまとめました。
前回調査（調査時期：令和２年１月）との比較結果は、以下のとおりです。

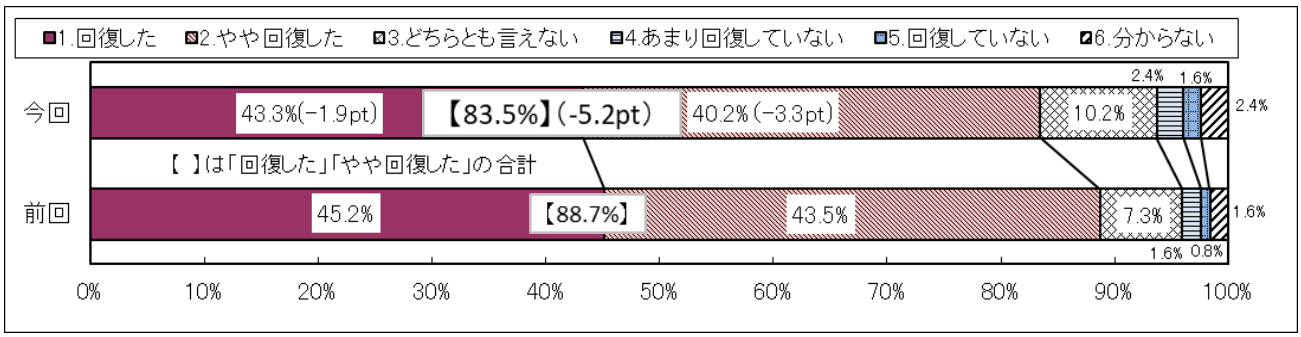
・「被災者の生活」の「回復した」は 43.3%と 1.9 ポイント減
「回復した」「やや回復した」の合計は 83.5%と 5.2 ポイント減
・「地域経済」の「回復した」は 16.4%と 3.0 ポイント減
「回復した」「やや回復した」の合計は 55.5%と 1.8 ポイント減
・「災害に強い安全なまちづくり」の「達成した」「やや達成した」の合計は 70.1%と 2.1 ポイント増

Ⅰ　調査目的等

目　　的：　東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、被災地域において復興の動きを観察できる立場にある方々の協力を得て、復興感に関する調査を実施するもの。
調査対象：　沿岸 12 市町村に居住または就労している方、153 名（原則毎回同じ方を対象）
調査時期：　令和２年７月
調査方法：　郵送法（今回回収率 83.7%（128 名/153 名））

Ⅱ　調査結果の概要

１　被災者の生活の回復度に対する実感



被災者の住宅再建や雇用環境の改善、復興道路の整備が進んでいることにより生活は回復したという声がある一方で、コミュニティ形成に課題があることや、今後の被災地における高齢化や人口減少、新型コロナウイルスの影響による不安の声があった。

主なコメント

○　**殆んどの方が、住宅を再建しており、また、稼働年齢層の方々は殆んど職に就いており、被災者の生活は回復している。ただ、新たな問題としてコロナの影響が出て来ている。**（回復した・進んでいる：60 歳以上, 地域団体・郵便局関連, 沿岸南部）

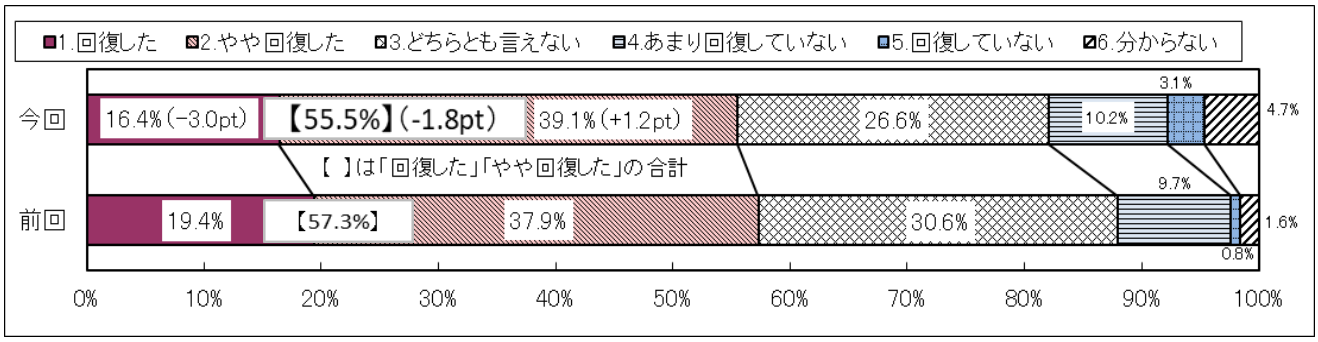
○　**自宅を自力で再建した方と、復興住宅に入居された方では、コミュニティに違いを感じる。特に復興住宅にお住いのお一人暮らしの高齢者の方へのサポートが必要だと思う。**（やや回復した・やや進んでいる：40 歳代, 地域団体・郵便局関連, 沿岸北部）

○　**復興の工事は進んでいるが、被災からの年月が経つにつれて、住民の高齢化や人口減少の影響がどんどん進んでいる。**（あまり回復していない・あまり進んでいない：50 歳代, 産業・経済・雇用関連, 沿岸北部）

○　**新型コロナウイルスによって、水産物の相場（価格）が下がり、物によっては、市場からの発注が激減し、所得が減収し、震災で家屋を失って新居の住宅ローン返済にも影響が出ている。**
（回復していない・進んでいない：60 歳以上, 地域団体・郵便局関連, 沿岸南部）

裏面へ続きます

２　地域経済の回復度に対する実感



市街地への店舗・事業所の再建、水産業の基盤整備などが進み、回復してきているとする一方で、復興需要の縮小、主要漁種の不漁、新型コロナウイルスによる地域経済への影響を課題とする声があった。

主なコメント

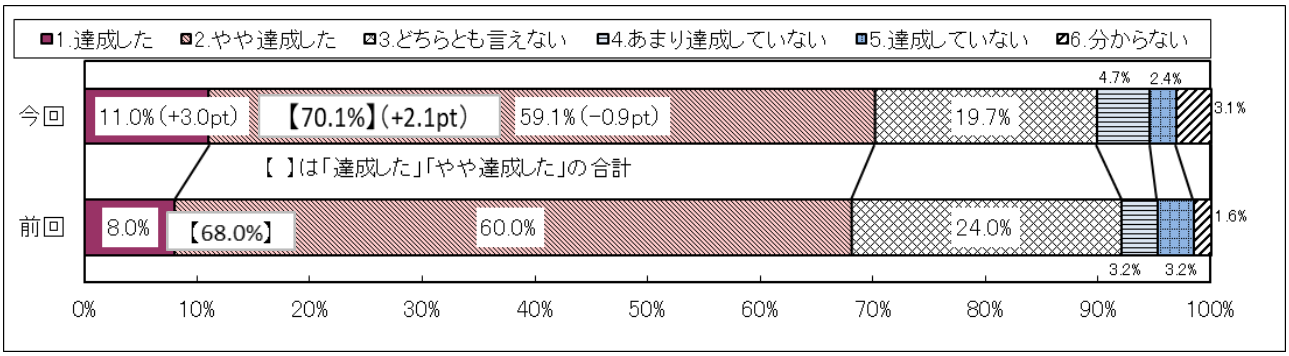
○　**空地がクローズアップされているが、市街地への店舗・事業所の再建は着実に進んでいると感じる。**
（やや回復した・やや進んだ：50 歳代, 産業・経済・雇用関連, 沿岸南部）

○　**水産業の基盤整備等は回復したと思うが、地域経済は漁業が中心で、サケ・イカ等漁獲量の減少により経済の落ち込みが心配される。**（やや回復した・やや進んだ：60 歳以上, 地域団体・郵便局関連, 沿岸南部）

○　**復旧・復興工事の終了で工事関係の人が減った。漁業ではワカメ生産は良好も、ホタテの貝毒、ウニ漁の不振。**　（どちらとも言えない：60 歳以上, 地域団体・郵便局関連, 沿岸南部）

○　**農林水産業の漁船、農地の配備整備は完了し、事業所に対してもグループ補助金等の支援がなされ生産設備等の再建が図られたが、漁獲量の減少が続き設備の有効活用できない状態に加えて、今回の新型コロナの影響が地域経済の回復の重大な支障になっている。**
（あまり回復していない・あまり進んでいない：60 歳以上, 地域団体・郵便局関連, 沿岸北部）

３　災害に強い安全なまちづくりの達成度に対する実感



防潮堤や復興道路等の整備、避難誘導標識の整備など、ハード面の進捗を評価する声がある中、防災意識の向上等のソフト面の安全対策や、台風災害に対する備えを課題とする声もあった。

主なコメント

○　**防潮堤や道路の整備も着実に進んでいる。避難場所の提示も各地でされている。**
（達成した・進んでいる：39 歳以下, 地域団体・郵便局関連, 沿岸南部）

○　**防潮堤の整備や津波復興祈念公園の整備が進み、ハード面での“安全”は目に見える形で進んでいるように感じる。それに加えて、ソフト面での“安全”についてより進めていくことが大切である。（小・中学校での防災教育の充実・市としての避難（防災）訓練の充実・震災経験の伝承他）**
（やや達成した・やや進んでいる：50 歳代, 教育・福祉施設関連, 沿岸南部）

○　**台風に対する対策は遅れており、東日本大震災、平成 28 年台風 10 号、令和元年台風 19 号と 3 回も被害にあった世帯もある。避難のための訓練やハザードマップの周知などのソフト面での対策と台風による内水氾濫のハード面の対策が必要である。**
（あまり達成していない・あまり進んでいない：60 歳以上, 地域団体・郵便局関連, 沿岸北部）

参　考

いわて復興ウォッチャー・動向判断指数（ＤＩ）の推移

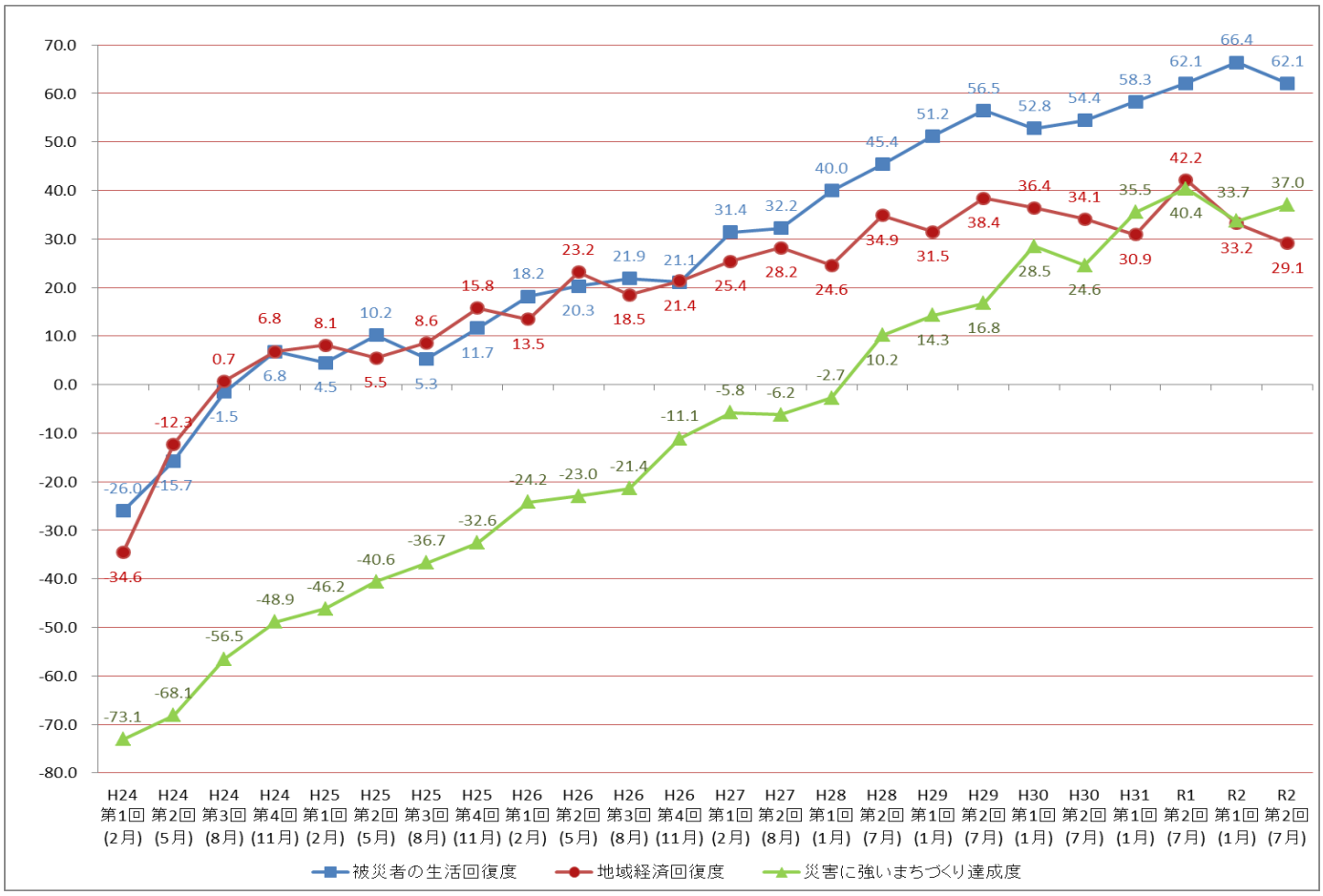
＜動向判断指数（ＤＩ）＞

掲載する折れ線グラフは、各回の動向判断指数（ＤＩ）について時系列にその推移を表わしたものである。

動向判断指数（ＤＩ）は、「回復した」の回答数がＡ、「やや回復した」の回答数がＢ、以下「どちらともいえない」がＣ、「あまり回復していない」がＤ、「回復していない」がＥのとき、次の式で算出する

動向判断指数（ＤＩ）＝｛(Ａ×２＋Ｂ）－（Ｄ＋Ｅ×２)｝÷２　÷（Ａ＋Ｂ＋Ｃ＋Ｄ＋Ｅ）×１００

（注）上記「回復した」は、設問によって「達成した」「進んでいる」等となる（他の選択肢についても同様）。



※　平成 27 年第１回調査までは直近３ヶ月間、平成 27 年第２回調査以降は直近６ヶ月間（今回は、おおむね令和２年１月～令和２年７月）を指す。